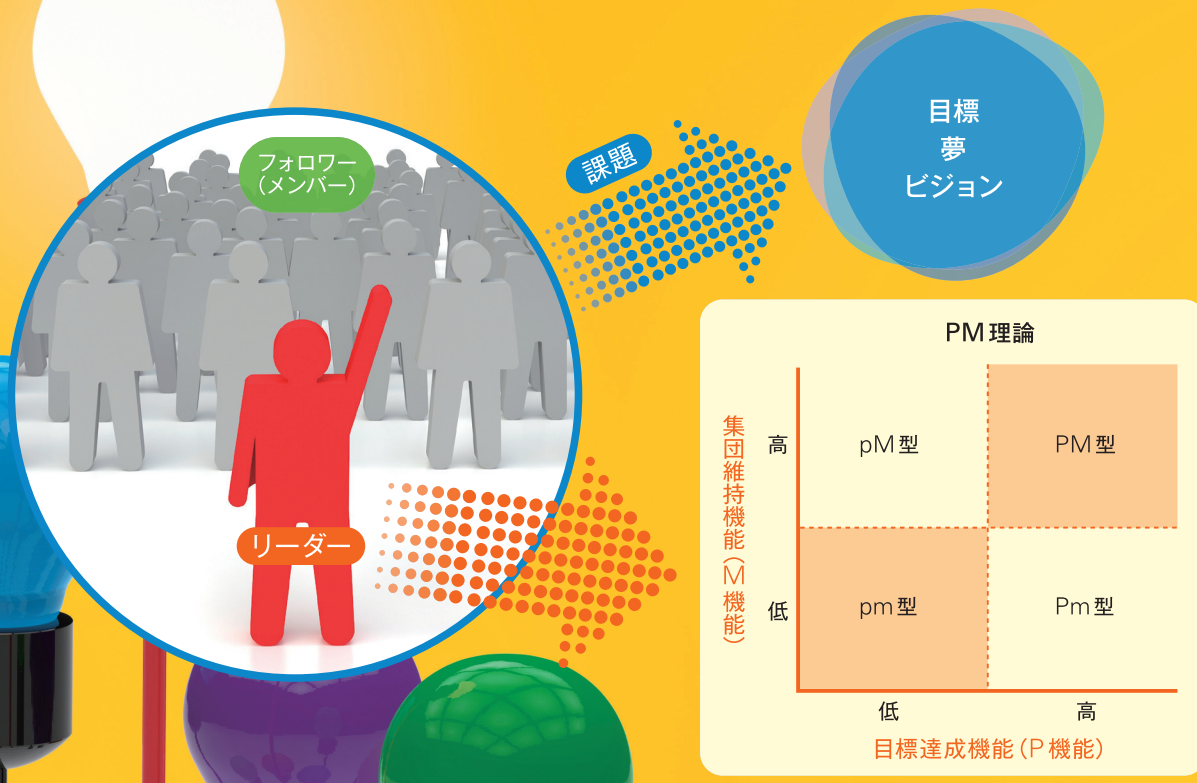


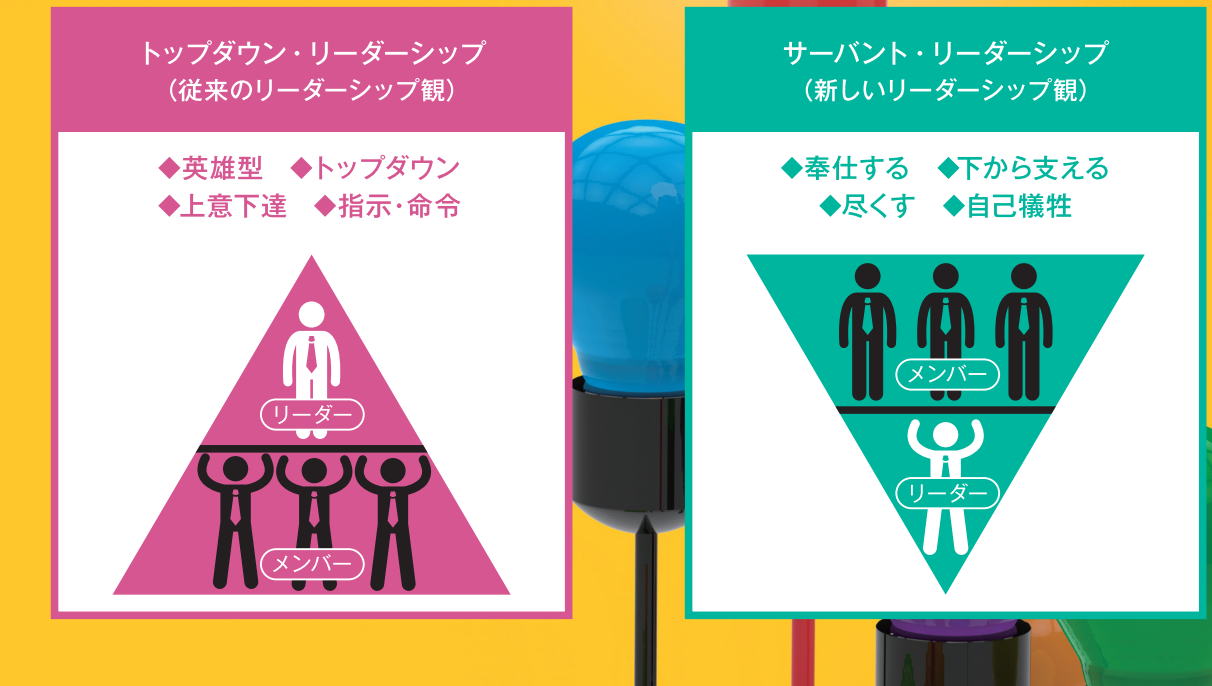
リーダーシップ

リーダーは、フォロワー（メンバー）による受容を前提に、集団を課題達成へと導く。そのリーダーシップには、PM理論によれば目標達成機能（P機能）と集団維持機能（M機能）の2つの機能があり、両者を兼ね備えたPM型リーダーシップが理想とされる。



新しいリーダーシップ観

近年は、従来の英雄型、トップダウン型のリーダーシップに代わり、サーバント・リーダーシップが関心を集めている。社会の多様化・流動化が進む現代においては、組織も柔軟で迅速な意思決定が必要になる。個々のメンバーを生かし、集団が全体として機能することを目指す新しいリーダーシップが求められる背景には、こうした環境変化もあるだろう。



企業や学校、スポーツなどの集団はある特定の課題を遂行するために存在している。その課題は、1人の力で成し遂げられることは稀であり、ほとんどの場合は複数のメンバーの取り組みに依存する。そして、複数のメンバーを課題の達成に導く役割やプロセスがリーダーシップである。リーダーシップは、心理学をはじめ、経営学や政治学など多様な学問領域において、古くからその重要性に関心が寄せられ、また現在もなお莫大な研究が蓄積され続けている。

◆リーダーシップは集団の現象

リーダーシップ研究のリーダーとも言われるラルフ・ストッティルによると、リーダーシップは「集団目標の達成に

向けてなされる集団の諸活動に影響を与える過程である」と説明される。すなわち、集団は目標を達成するために様々な活動を行うが、その活動の方向性を定めたり、メンバーをやる気にさせたり、メンバー同士の協力・連携を促すように導く影響力のことをリーダーシップと呼ぶ。

この定義はやや抽象的ではあるが、これを明確に理解するためには次の2点に留意する必要がある。第1は、リーダーシップとはある特定の個人に限定されず、メンバーもリーダーシップを発揮することができる集団の機能を指している点である。第2は、リーダーシップがメンバーによる受容を前提としていることである。一般的に、リーダーシップとはリーダーによる一方的な働きかけのことを指すと考えられがちだが、たとえリーダーがいくら優れた言動を発

しても、受け手のメンバーが動かされなければ意味がない。したがって、この前提から考えると、メンバーが受け入れて初めてリーダーシップという現象が生まれることを意味する。リーダーシップ研究者のジェイムズ・クーゼスは、リーダーシップという現象を一言で表すと、「信頼」という言葉に集約できると指摘している。

◆リーダーシップの機能

リーダーシップには大きく2つの機能（スタイル）がある。1つは目標達成機能（P機能）であり、集団の目標達成に寄与するリーダーの働きかけのことである。もう1つは集団維持機能（M機能）であり、集団メンバーの人間関係に配慮した働きかけである。世界的に知られる社会心理学者の三隅

じゅうじ二不二が提唱したこのPM理論では、2つの機能のどちらか一方ではなく、2つの機能を兼備したPM型リーダーシップが集団の生産性が最も高く、メンバーの満足感やモチベーションも高いとされている。

リーダーシップについて、一般的には、大勢の人の上に立ち、人々をぐいぐい引っ張る現象を想像することが多いが、実は、リーダーシップ研究においても、古くからそのようなリーダーシップを意識して研究や実践が行われてきた。それに対して、近年では、メンバーを支え、生かし、そして奉仕するサーバント・リーダーシップが注目を集めている。

（池田 浩）